

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 171	提案機関名 湘南農協 営農経済部
要望問題名 水稻の1等米比率向上に向けた品種選定と研究について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 当農協管内は、約580haの水稻の作付があり、栽培品種はキヌヒカリが70%以上を占めている。 この1等米比率は、平成23年度37%、平成24年度24%と年によってバラツキがあり、その原因は、出穂期の高温等により白未熟粒が発生し、品質低下をきたしている。 そこで、これらの影響の少なく、良食味米の有望な品種の選定と技術面での研究に取り組んでいただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 水稻奨励品種決定調査事業、普通作物における安定生産技術の開発			
対応の内容等 神奈川県的主要品種である‘キヌヒカリ’と‘さとじまん’は高温に弱く、品質の低下が問題となっています。そのため、水稻奨励品種決定調査事業において、早生品種は高品質と良食味、中生品種は高品質、良食味と病害抵抗性を重点に選定し、‘キヌヒカリ’、‘さとじまん’に代わる品種の選定を行っています。併せて高温耐性評価を行い、高温でも安定した品種の選定を行っています。 技術面については、後期重点型施肥体系と疎植栽培が品質低下を抑制することが報告されています。現在、それらを組み合わせて、‘キヌヒカリ’の安定生産につながる試験を行っていますので、随時結果を公表していきます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			